

GPT-5.6シリーズの衝撃：超自律型AIの誕生と「みなし輸出」規制の波

米圏 & 信頼できるパートナー (Trusted Zone)



GPT-5.6 シリーズの製品体系と戦略: 3層の製品ポートフォリオへの再編

- 従来命名規則を廃止し、天文学をテーマにした「Sol (太陽)」「Terra (地球)」「Luna (月)」の3モデルを擁護。
- プロンプト・キャッシングによる00%のコスト削減 (30分以上のキャッシュ俱休を要証。書き込みコストは1.25倍だが、読み出しは90%割引され、貴大な法的文書や特許明瞭書の反復処理に最適。)

自律的コーディングベンチマーク (Terminal-Bench 2.1)



モデル名	入力コスト (\$ / 1M token)	出力コスト (\$ / 1M token)	主なユースケース
GPT-5.6 Sol	\$5.00	\$20.00	高機能な相談、自律型コーディング、サイバーセキュリティ脆弱性
GPT-5.6 Terra	\$2.50	\$15.00	バランス型。目安的なエンタープライズ業務支援
GPT-5.6 Luna	\$1.00	\$6.00	シリーズ最速・最安。大規模分析、大規模文書の要約

Ultra Mode (ウルトラモード) の革新

モデル自身がタスクを解釈・分解し、補助の「サブエージェント」を自律的に活動・指揮して旅行計画を行う。



Terminal-Bench 2.1で史上最高スコア (91.9%)

最大750トークン/秒の驚異的なスループット (Cerebras社のAI専用プロセッサを採用し、従来のGPUインフラの限界を突破する生成速度を実現。)

「みなし輸出」規制の波：APIゲートウェイと地政学的分断

「みなし輸出」規制と地政学的分断

- クラウドAPIへの「みなし輸出」適用の拡大
APIを通じた高度な推論能力へのアクセス自体を「技術の輸出」とみなし、外国籍個人 (米国内滞在者含む) の利用を規制。
- グローバル・キルスイッチの衝撃
(脆弱性が発見された際、米圏政府の命令によりAnthropic社のフロントエンドモデルが全世界で完全に停止された事象が発生。)

主権AI (Sovereign AI) への投資加速



米圏への依存リスクを回避するため、各国で独自のAI基盤構築が急務。

国際社会 & 規制影響 (Restricted Zone)

知財 (IP) 業務への影響と法的リスク



USPTOによる「自然人のみの原則」の再確認
発明者は「自然人 (人間)」に限定され、AIがいかに高度な自律性を持っていても発明者として認定されない。

「著想 (Conception)」の立証責任

AIの出力を単に模倣しただけでは不十分であり、人間がいかに独自の創意工夫を凝らしたかを証明 (AI Audit Trail) をもって示す必要がある。



草業レベルのアクセス管理 (TCP)

RBD部門内の権限の厳格な管理に越え、APIアクセスを個人レベルで動的に許可・遮断する厳格な管理体制が求められる。